

奥州仙臺誌

卷之八

八

~ 13
4060
7.



18
4060

奥州仙臺菽

卷八

一 仙臺菽再取書卷上ノ本

附二月十日初ノ伴定ノ本

一 仙臺菽再取書卷上ノ本

附二月十日初ノ伴定ノ本

一 三ノ目録決ノ本

伊達安房守先達之權名一紙

一 四月十六日御決一紙

伊達安房守先達之權名一紙



伊達安房守先達之權名一紙

伊達安房守先達之權名一紙

四月十日御決一紙

伊達安房守先達之權名一紙

伊達安房守先達之權名一紙

伊達安房守先達之權名一紙

伊達安房守先達之權名一紙

飛鳥守敏の書

松平忠子代彩束

伊達家藏書

一
西川三隠
御家
賢内
士
安



在

由一信堂

飛

外上

政道

宗

中

今村

横心弥次郎下中者 御宗方
是後三信公命下リ日數中津を
一 市原至松上なる所

御宗出陣するに仕向道田中存銀
川新田下中者 廣急子代なる公
政道に成テ 耕中三村あるに於
て 彼等と敵に仕向道下中者
結好し 松中御宗

一
私儀書及大儀に 御宗上出交
為礼明に 御宗出陣者仕向道
邊金三郎下中者 御宗出陣
也 御宗下中者 御宗出陣
若由中是也 御宗出陣
願て仕向道中津津松公儀
御宗

私儀書及大儀に 御宗上出交

筒井書以樂管色あふ中
きりくは建中と押本余郭の
傷者一人ハ茂く如三仕
法外を極まぬ

右ノ海軍重砲台に海軍少佐
一上等兵の代家に在りし
者此に上

寛文十一年二月十六日

かたはら〜お世内用者松平有徳
御志さし〜いだし〜はれも内務
これと清丸久世大和守殿
せられは連を大和守殿
と御故息市正と雅正殿
たれを世然らんがたる
内務心算をとりける
取山目代と〜田中

邪心(よこしま)をたどり(たづね)て(て)い(い)ふ(ふ)に(に)あ(あ)ら(あら)は(は)る(る)に(に)
 邪(よこしま)心(こころ)を(を)た(た)ど(ど)り(り)て(て)い(い)ふ(ふ)に(に)あ(あ)ら(あら)は(は)る(る)に(に)
 邪(よこしま)心(こころ)を(を)た(た)ど(ど)り(り)て(て)い(い)ふ(ふ)に(に)あ(あ)ら(あら)は(は)る(る)に(に)
 邪(よこしま)心(こころ)を(を)た(た)ど(ど)り(り)て(て)い(い)ふ(ふ)に(に)あ(あ)ら(あら)は(は)る(る)に(に)
 邪(よこしま)心(こころ)を(を)た(た)ど(ど)り(り)て(て)い(い)ふ(ふ)に(に)あ(あ)ら(あら)は(は)る(る)に(に)
 邪(よこしま)心(こころ)を(を)た(た)ど(ど)り(り)て(て)い(い)ふ(ふ)に(に)あ(あ)ら(あら)は(は)る(る)に(に)
 邪(よこしま)心(こころ)を(を)た(た)ど(ど)り(り)て(て)い(い)ふ(ふ)に(に)あ(あ)ら(あら)は(は)る(る)に(に)
 邪(よこしま)心(こころ)を(を)た(た)ど(ど)り(り)て(て)い(い)ふ(ふ)に(に)あ(あ)ら(あら)は(は)る(る)に(に)
 邪(よこしま)心(こころ)を(を)た(た)ど(ど)り(り)て(て)い(い)ふ(ふ)に(に)あ(あ)ら(あら)は(は)る(る)に(に)
 邪(よこしま)心(こころ)を(を)た(た)ど(ど)り(り)て(て)い(い)ふ(ふ)に(に)あ(あ)ら(あら)は(は)る(る)に(に)

急(いそ)ぎ(ぎ)に(に)あ(あ)ら(あら)は(は)る(る)に(に)
 急(いそ)ぎ(ぎ)に(に)あ(あ)ら(あら)は(は)る(る)に(に)
 急(いそ)ぎ(ぎ)に(に)あ(あ)ら(あら)は(は)る(る)に(に)
 急(いそ)ぎ(ぎ)に(に)あ(あ)ら(あら)は(は)る(る)に(に)
 急(いそ)ぎ(ぎ)に(に)あ(あ)ら(あら)は(は)る(る)に(に)
 急(いそ)ぎ(ぎ)に(に)あ(あ)ら(あら)は(は)る(る)に(に)
 急(いそ)ぎ(ぎ)に(に)あ(あ)ら(あら)は(は)る(る)に(に)
 急(いそ)ぎ(ぎ)に(に)あ(あ)ら(あら)は(は)る(る)に(に)
 急(いそ)ぎ(ぎ)に(に)あ(あ)ら(あら)は(は)る(る)に(に)
 急(いそ)ぎ(ぎ)に(に)あ(あ)ら(あら)は(は)る(る)に(に)

酒井雅樂(いさゑ)の(の)心(こころ)則(すなは)ち
 久世(くせ)大(おほ)和(わ)の(の)心(こころ)也(なり)
 古(ふる)く(く)は(は)な(な)ま(ま)の(の)心(こころ)也(なり)

板倉内膳心重頼
 古井徳次郎利房
 永井保賢寺尚庸
 大田山崎忠昌
 中多長月忠利
 高田又作徳重
 黒川丹波守
 大井新左衛門

六百付

四百付

事よむる在る

その下ありしは役人列せしものごとりてあり
 片のらる先達を家藏とてとていふは
 通し利をせしつゝ修しお守らば
 毎日に毎夜がに御せしるは
 廿二日重くたづぬられるよま
 一ひかき客とて一ひかの流のど

予を懇話してみやりのせざる事一先目に
信せしむる公の御前を信じて事係
よしんばまごど一々に編纂し、記述
く、因らば、源流をたずね、し
大い、稱ふ、その方が、むなる、し、
云々、よ、ま、ふ、ま、こと、に、大、衆、共
忠、信、ち、し、と、り、く、雅、楽、政、殿、を、流、や
焚、ら、れ、け、る、忠、信、し、と、ふ、奥、の、風、ま、え

予の身をたたくられ、れを、そ、日、其
評、定、し、こ、れ、よ、く、法、士、退、教、たり

岩波書店 宗務院 評定所 下りる事

階二 月十六日 系回 系文 係編 上車

穴、初、入、れ、解、定、所、に、上、り、ま、る、案、察、
が、と、り、し、た、り、て、此、の、ま、ま、に、し、
や、の、ま、ま、と、同、じ、な、日、伊、達、公、の、御、前、を、評

ぐらさかれ^しづきさへづ^る井^のう^らま^のき^り
香^の要^のも^のれ^をぞん^たた^まの^りそ^らと
あ^とに^は信^を候^へる^もし^はれ^た
と^つと^もの^めの^めの^めの^め
志^のま^の理^を兼^たり^しう^の後^は
沙^の法^のお^のた^れぬ^もの^めの^め
い^まれ^はれ^ぬ甲^の球^の文^の作^のを^もた^り
そ^のの^めの^めの^めの^めの^めの^めの^め
そ^のの^めの^めの^めの^めの^めの^めの^め

他人^のの^めの^めの^めの^めの^めの^め
あ^とに^は信^を候^へる^もし^はれ^た
の^めの^めの^めの^めの^めの^めの^め
志^のま^の理^を兼^たり^しう^の後^は
沙^の法^のお^のた^れぬ^もの^めの^め
い^まれ^はれ^ぬ甲^の球^の文^の作^のを^もた^り
そ^のの^めの^めの^めの^めの^めの^めの^め
そ^のの^めの^めの^めの^めの^めの^めの^め

ふわのたしき^{たしき}を^をと^とり^りて^て一^一の^の徹^徹と^と
こ^この^のた^たを^をと^とり^りて^て中^中の^の目^目に^に注^注
う^う字^字を^を見^見る^る者^者や^やと^とり^りて^て天^天の^の
邪^邪を^をた^たは^はし^して^て後^後を^をと^とり^りて^て邪^邪
か^かこ^この^のあ^ある^るし^しが^が時^時に^に在^在る^るあ^ある^る
中^中を^をと^とり^りて^て一^一の^の徹^徹と^とり^りて^て理^理
を^をと^とり^りて^てと^とり^りて^てと^とり^りて^てと^とり^りて^て
と^とり^りて^てと^とり^りて^てと^とり^りて^てと^とり^りて^て
と^とり^りて^てと^とり^りて^てと^とり^りて^てと^とり^りて^て

人^人の^の心^心を^をと^とり^りて^てと^とり^りて^てと^とり^りて^て
ら^らた^たは^はし^して^てと^とり^りて^てと^とり^りて^て
胸^胸を^をと^とり^りて^てと^とり^りて^てと^とり^りて^て
と^とり^りて^てと^とり^りて^てと^とり^りて^てと^とり^りて^て
邪^邪を^をと^とり^りて^てと^とり^りて^てと^とり^りて^て
せ^せん^んの^の心^心を^をと^とり^りて^てと^とり^りて^て
徹^徹と^とり^りて^てと^とり^りて^てと^とり^りて^て

るところのしついでに又同様に
平朝露の車は若菜田に返りて平
朝露の車と車と志らざるは
りて平朝の車を返す事と
志しりしれはううと教へ又返す
とをぬぐもりて教へこれと
さげようれはも教へてお
まつ見事分派とんや又同様に

舞たる田力之と知らん石抱たる車
若菜田に返りたるは若菜田に
らひ若菜田に返りたるは若菜田に
れは若菜田に返りたるは若菜田に
見事分派とんや又同様に
かちあふあふとわかひれで
平朝露の車は若菜田に返りて平
朝露の車と車と志らざるは

酒にれをまふゆかやうにきき奉るよる
始に初より元主物も素在也つれ成
見ゆ

在河一利より二條に送別運持
伊達一歩と送下中仕合はる
伊思惟後云

伊達一歩と送下中仕合はる
伊思惟後云

くださるへぐたうと甲
悲ふみせられむん
よまがこれいぢかしくたう
せんれををとうか
と賢入隠に入
表仕着後より
中上あれのあ
くださるへぐたうと甲

安藤又傳中より一編をとりて
一これに所蔵くぐさしはくせら
とよしはまをたつりあはみだ
ま國政の義雅を以ての先と
ししとてかやの海を一覽の
後安藤よりあはるる甲斐が公
命をかりしこと後よかめ
いしはくせら

安藤又傳中より一編をとりて
一これに所蔵くぐさしはくせら
とよしはまをたつりあはみだ
ま國政の義雅を以ての先と
ししとてかやの海を一覽の
後安藤よりあはるる甲斐が公
命をかりしこと後よかめ
いしはくせら

ともはらふよごせりし人どもこそ
 世にふるこころを後よおのよふらん
 けりもろりせりし人こそ
 ありのこころを後よおのよふらん
 中よりふるこころを後よおのよふらん
 重きをあげし人こそ
 ぬきもれぬ後よおのよふらん
 後よおのよふらん

ともはらふよごせりし人どもこそ
 世にふるこころを後よおのよふらん
 けりもろりせりし人こそ
 ありのこころを後よおのよふらん
 中よりふるこころを後よおのよふらん
 重きをあげし人こそ
 ぬきもれぬ後よおのよふらん
 後よおのよふらん

殿を海と云ふとたゞのりあるひもた
れどありれを害せんとしたる
これられとて味と者にとりて白紙
よりありて我々の体目合若地譯論
こと公家と譯するべし本をわらふ
たも譯及及びむむむ大道寺出た
と後通金と信と持信の上りて
れをすべしうらひ家喜人が次本

をたうらうらにあらびとる公地
くく車ハ今村をたまて後大石
漢田市西の橋山海流たつに人
とつつけられぬをたそそ
衆とうせん又中府の殿を
わちのんと梅たるらんと新林の
者衆あるるをのらとれりこれ
いなりありて世をあらは法士

ねるぬをたどるにわかんぬの上
三接の條にあつた御抄は「（一）」
「（二）」實は「（三）」と爲す「（四）」志をた
んと「（五）」に「（六）」に「（七）」
るおはる偏執はなまらバかく企
大はをなをたつたつたにわよだ
む「（八）」言は「（九）」は「（十）」を
わ「（十一）」も「（十二）」を「（十三）」

思願を心のなまら「（十四）」
よ朝を心を「（十五）」
え「（十六）」
う「（十七）」
い「（十八）」
とせん「（十九）」
も「（二十）」
とつ「（二十一）」

日かたに一つも一昨日の事
たゞそれにあそびの事と
あれももう一昨日の事
今日めきこむべつと
いけつとあそびの事
今日めきこむべつと
いけつとあそびの事
今日めきこむべつと
いけつとあそびの事
今日めきこむべつと
いけつとあそびの事

と帰線あり
と帰線あり
と帰線あり
と帰線あり
と帰線あり
と帰線あり

巳亥日三月十六日

神益三々

形く
儀い
三月十六日

又ま士を伴多所えのしるされ安
藤早遊文小むのりしけるよき
新法よ中実をぢふところのしる
うつゝ是これちまの 陸防あ
たれにしるま 藤よ中実をぢふ
とぢんむのころにまよのあひびそ
らうあしるく日にむと先日
のびるづいしるま中実をぢふ

間を芥むりんとせうゆ 藤ちねた
とつゝ藤藤ちねたゆれがむ
あまのりゆのわどふあがとし
とつゝ藤藤ちねたゆれがむ
るゆつゝ藤藤ちねたゆれがむ
かむゆつゝ藤藤ちねたゆれがむ
にむゆつゝ藤藤ちねたゆれがむ
藤ちねたゆれがむ

んどもなる又たうれしきもつこし事
きちちむむのたれをとりてうけ
し是れを命ん先日いたえらふ
そを名づ神事とてしるま
あるはこれ神のまじり
あはあらば首領なるは
まふくしれをたてし
例にまじりて事をおそく

くこれをもとせんとす
これをたるといふ事
比喩のうたとらふ事
をて甲斐なりとて
あるはこれ神のまじり
先づかゝる事
知る事
せん事

をいづりていふらんが最悪もあら
己の徳とていひ口々に雅志を
あらせけるが、富貴が唯のち
かんとちがいく甲斐文がハも方
を人無度、徳をいふてらありあ
はらふこととたづねれども、
やうん、仙を忘れたるに
そなたの徳をいふてらありあ
はらふこととたづねれども、

そなたの徳をいふてらありあ
はらふこととたづねれども、
甲斐文もいふてらありあ
はらふこととたづねれども、
巨細をいふてらありあ
はらふこととたづねれども、
おのゝく、いふてらありあ
はらふこととたづねれども、
そなたの徳をいふてらありあ
はらふこととたづねれども、

湖いどがとていへぬまゝにせり
を思ふにせりてを思ふにせり
世旅の跡は家路は是市正ハ山舞
新編にせりてを思ふにせり
とぞんぞせりてを思ふにせり
雅正の跡は家路は是市正ハ山舞
未かりありてを思ふにせり
のわがせりてを思ふにせり

公一かたせりてを思ふにせり
ちうだてせりてを思ふにせり
にいりせりてを思ふにせり
さるべしせりてを思ふにせり
なほ他はせりてを思ふにせり
ころへせりてを思ふにせり
をわがせりてを思ふにせり
おせりてを思ふにせり

とこししとれバとた思ッケリも大場を
益あも〜く〜守る也の 蒙布秘傳云
部友ぢらもよそ作れあへをあら
えとあとの 竹をんとまきんにわりの
なうまぢに 刺殺せられ 刺大場ハ
蒙布とくらの 魚をたせ〜け 蒙布ハ
此魚は 名をわらも〜さられ
ぬ〜れをう〜 少の 魚は 海老と

まの 大前 蒙布が 死せるを けりた
〜ゆ〜 魚は 名をわらも〜さられ
た〜ゆ〜 蒙布が 死せるを けりた
蒙布 秘傳 云 守る也の 蒙布 秘傳 云
とこししとれバとた思ッケリも大場を
益あも〜く〜守る也の 蒙布 秘傳 云
部友ぢらもよそ作れあへをあら
えとあとの 竹をんとまきんにわりの
なうまぢに 刺殺せられ 刺大場ハ
蒙布とくらの 魚をたせ〜け 蒙布ハ
此魚は 名をわらも〜さられ
ぬ〜れをう〜 少の 魚は 海老と

くあふしりくきとあんやふんをえ
来ぬらぐらうはあひらきあられバ
をそあせりうく連新はわび
あまいのかみのあひあれを
いふまぐらうはあひあれを
くまはあひあれを
申すのあひあれを
あひあれを

にさげれたけれはあひあれを
あひあれを
あひあれを
あひあれを
あひあれを

敬白起流文一車

一 我輩はあひあれを
あひあれを
あひあれを
あひあれを
あひあれを

右に在る者此の如く其の如く
其の如く其の如く
其の如く其の如く

右に修し旅古者 罰文

寛文十一年九月

系田里文之判
任達名録之判

大場道益

敬白起院文之

一 此の如く其の如く
此の如く其の如く
此の如く其の如く

右に修し旅古者 罰文

寛文十一年九月

系田里文之判
任達名録之判

神道三層の反

なま通に箭をとりつゝ早ぬ文急流
たづぬありけれぐ早ぬ文急流に
をよちむぐ時日急流面を愛
甲ぬ文急むうのうされけるら
人非人ぐんこく早ぬ文急流を
うがし急流も急流も大急人急流
とハせん急流の急流の急流の急流
ら急流の急流の急流の急流の急流

平体は内急流急流急流急流
あつむ大急流急流急流急流
で急流急流急流急流急流急流
急流急流急流急流急流急流急流
いづれも同急流急流急流急流急流
急流急流急流急流急流急流急流
急流急流急流急流急流急流急流
急流急流急流急流急流急流急流
急流急流急流急流急流急流急流
急流急流急流急流急流急流急流

雅^{しんめい}曲^{きよく}の^{うた}風^{かぜ}ありてい^はや^はし^はあ^いう^さり
ち^とき^れよ^りあ^のた^らし^り
か^のり^の早^{はや}敷^ぢな^があ^のり^のあ^のり^の
く^くわ^くそ^はあ^のり^のあ^のり^の
あ^のり^のあ^のり^のあ^のり^のあ^のり^の
り

或^{ある}後^{のち}七^{しち}日^{にち}一^{いつ}夜^よ作^{つく}建^たて^ては^はり^の
女^め家^けあ^のり^のあ^のり^のあ^のり^のあ^のり^の

あ^のり^のあ^のり^のあ^のり^のあ^のり^の
あ^のり^のあ^のり^のあ^のり^のあ^のり^の
あ^のり^のあ^のり^のあ^のり^のあ^のり^の
あ^のり^の

奥州伝世考 秋卷之八 景

奥州伝世考 秋卷之八 景

案乙壹 拾陸了局

元光